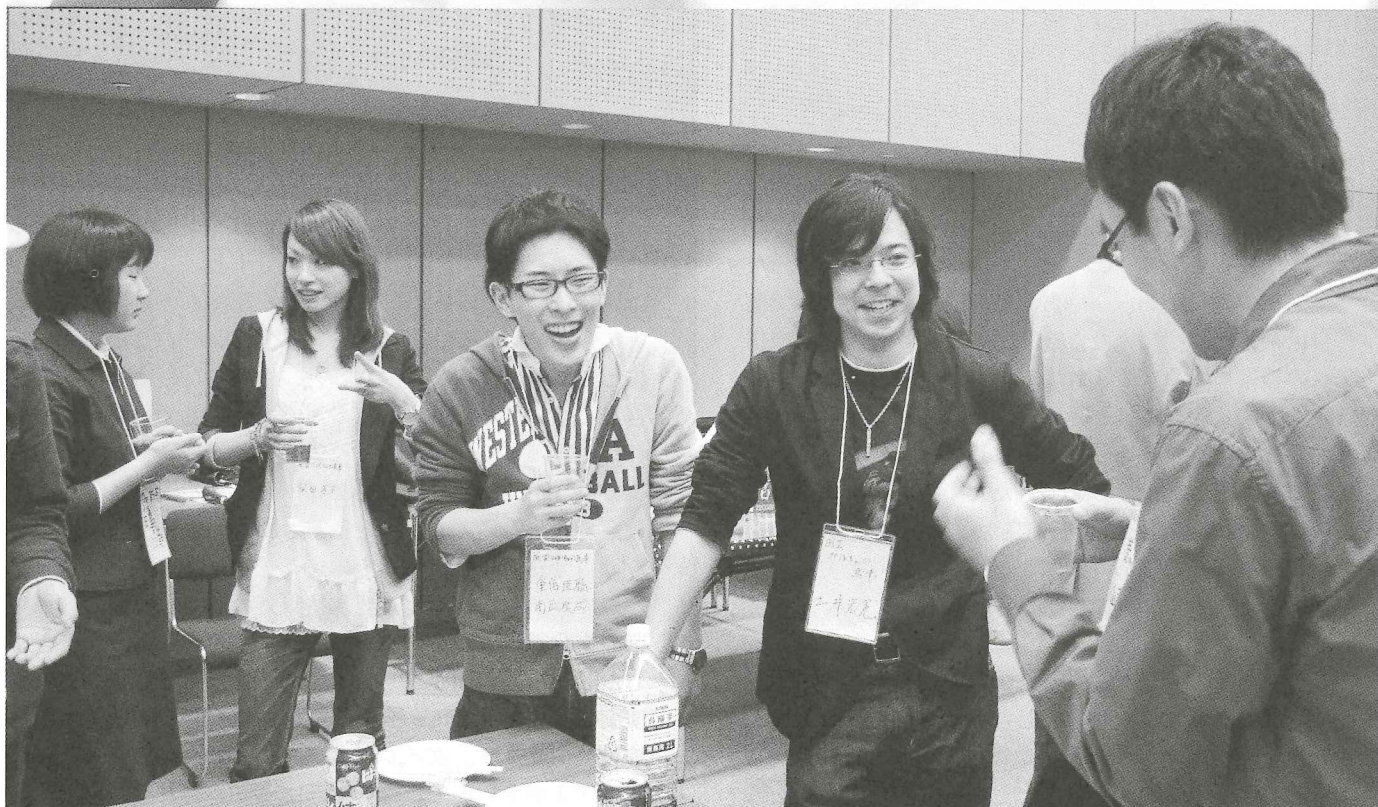


# DRAMA かながわ 55

神奈川県演劇連盟事務局：横浜市中区福富町西通り52（横浜演劇研究所内）Tel. 045-261-4866

## 2009 神奈川県演劇連盟総会



### 総会を終えて

神奈川県演劇連盟理事長

横田 和弘（劇団河童座）

2009年度の総会が4月12日(日)ヴェルク横須賀で開かれた。参加者は代議員39名招待者11名を含み66名。藤井副理事長(京浜協同)の開会宣言に始まり来賓の神奈川県文化課の高橋透氏、演劇プロデュース螺旋階段の緑伸一郎氏の挨拶をいただき、議長に選出された福本幸男氏(蒼い群)の元議事が進行された。理事長の「今年度は、さらなる力を」の言葉から始まり、08神奈川県演劇フェスティバルの報告・演劇博覧会・ドラマ神奈川の現状・第6回合同公演の報告・世界演劇祭の報告・要望書活動についての報告・08年芝居塾の報告・芸術劇場とのかかわりについての報告・演劇資料室の現状報告・その他県演劇連盟の活動報告・会計報告・監査報告と13の議案が大きな質疑もなくスムーズに進み全員の拍手を持って承認された。続いて09年の活動方針

及び予算案を含む9議題が発表され質疑に入った。赤レンガにおけるポスター展への提言・合同公演への提言・議案書の製作の遅れに伴う事務局体制の強化・09年度の役員の報告のないことへの指摘などが議論され、特に行政との関係が多くなりあまり行政の方針に振り回されないようにとの意見が印象的であった。

今年の大きな特徴は、昨年の総会には少なかった来賓の多さではなかったか。県文化課・芸術劇場準備室・さらには演劇プロデュース螺旋階段・劇団新茶・劇団素倶楽夢・劇団スクランブル・劇団やぶさか・スタジオソルト6劇団の招待団体が出席してくれた。これは、多くなった企画行事や50周年の合同公演、芸術劇場の柿落としの年の合同公演などを迎えるにあたって演劇連盟の参加劇団を増やし、



もっと力をつけねばとの方針に良い結果として現れてくれればと思いたい。現に螺旋階段の参加表明もあったし、大和塾からの加盟にたいしての前向きな声も聞こえてきている。文化課の高橋氏が若い人が多くいたことに驚いていた。これは演劇連盟は老舗・長い歴史を持つ古い劇団が多いとの印象を持っていたからではないだろうか。県演連には当

然若いメンバーも多く、若い新しい集団に開かれていることを連盟内外に示した総会でなかったかと思われる。

これから、二つの合同公演に向かっていろいろ論議され、動きださなくてはいけない年度になることは、間違いない。「さあ 忙しくなるぞ!」と笑いながら、前向きな総会であったと思いたい。

## 神奈川県演劇連盟総会 交流会の感想

劇団河童座 椎谷大輔

この度、神奈川県演劇連盟総会、交流会の部で司会を勤めさせていただきました劇団河童座の椎谷と申します。僭越ながら感想を述べさせていただけることを光栄に存じます。

まず、私のことを知らない方が多いかと存じますので簡単に自己紹介をさせていただきます。私は1981年、神奈川県生まれの神奈川県育ち、生まれてこの方、神奈川県を出た事が無い人間です。高校生のときに「劇団河童座」の演劇講習会に参加させていただきました。それ以来、約10年余りになりますが、お芝居を続けさせていただいております。劇団員からは「高校時代の芝居が一番良かった」といわれ続けながら、右肩下がりではありますが、出来る限り努力精進する演劇生活を送っております。

さて、そろそろ本題に入りましょう。

まずは……交流会お疲れ様でした！（遠い所お越しいただき、ありがとうございます！）

私事でございますが、司会などという大それたことをほとんど経験しておらず、ご参加の皆様はたいそうもどかしい思いをなさったかと存じます。しかも、司会進行として最もやってはいけない、開催時間オーバーという荒技も繰り出し、大変失礼致しました。（使用時間の延長手続きをしていただき、無事に終わることが出来ました）

そんなこともございましたが……参加された皆様、今回の交流会（総会も含め）はいかがでしたでしょうか？ 私は大変楽しく交流が出来たという感想を抱きました。何故なら、いつにも増して参加者の年齢層が若かったという点、また演劇連盟加盟団体以外の参加者が多数いらっしまった点が大変印象に残ったからです。これは諸先輩方を否定しているのではなく、また連盟だけじゃつまらないと申しているわけではありません。単純に、「若い＝新しい」方々を交える方が、より話も盛り上がり多方面での交流ができるからです。そして盛り上がった交流会は、今回のように必然的に楽しいものとなり、また参加したいという気持ちを植えつけます。確かに腐れ縁同士の「飲み会」よりも「新人歓迎会」とか、「合コン」（合同コンパの略）の方が楽しいです

よね。……少し脱線いたしました。ただ楽しいだけでなく、そこで知り合った方々が少しでも神奈川県演劇連盟のことを知っていただければ何よりですね。そして最終的には「私も連盟に入ります！」といった団体もいらっしまったら、多少の下心をいだいております。おそらく横田理事長にとってもまた、（お酒は飲めませんが）このような場は好きだと思いますし、ましてや連盟の強化にもつながるとあれば願ったり叶ったりだと思います。

また、交流会には様々なアピールの場が提供される良い機会であるといえます。政治家さんの「パーティー」よろしく、自分達のやりたい事を幅広く皆様に知っていただくことができます。今回は連盟加盟以外の劇団・団体の方や、県の文化課の方からいろいろお話をいただくことができましたし、加盟劇団からも公演のお知らせなどを行いました。演劇を行う者として、公演を見ていただく方を増やす絶好の場であります。ダイレクトメールだけでは伝わらない部分が伝えやすいのではないのでしょうか。これも私事ですが、「飲みにケーション」とはよく言ったもので私のような「シャイボーイ」（死語）には、ざっくばらんな雰囲気の方が言いたいことが言いやすいということを改めて実感しました。

（実際、この交流会で公演のお知らせをした方が観に来ていただきました！ありがとうございます！）

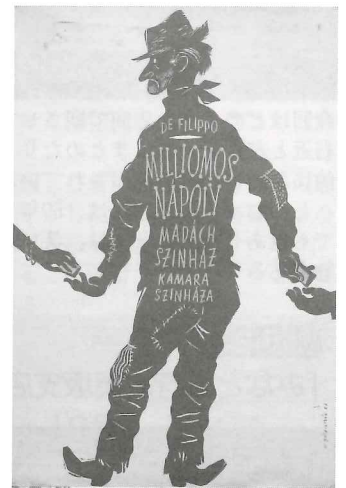
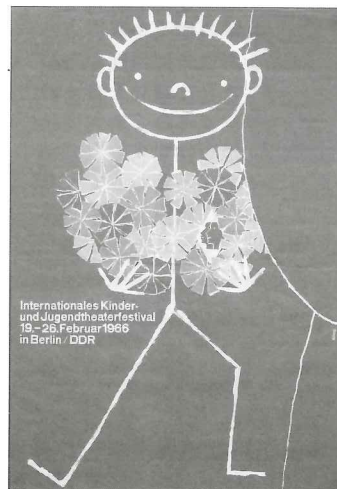
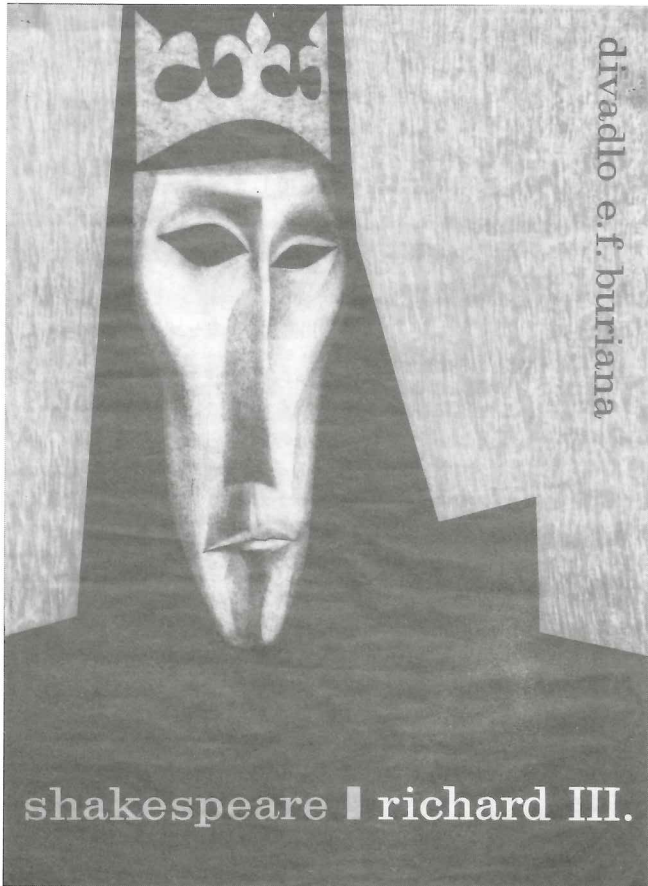
以上、長々と述べさせていただきましたが、たかが交流会、されど交流会。司会を終え、この原稿を書いているときに、この会の目的を再確認いたしました。（司会の最中はまったくそれどころではありませんでしたが……）

芝居を作るには楽しい事ばかりではありません。辛く苦しい場面も多いかと思えます。ですが、我々作る側も、また観ていただくお客様も楽しくなきゃ続かない。その「楽しい部分」を、この交流会が担ってくれば、大成功といえるのかな……と感じた次第でございます。次回の総会も、また交流会も、さらに新しい方々（若くなくても可）を交え、活気のあるものにしていきたいですね。最後までご拝読ありがとうございます。以上をもちまして感想とさせていただきます。乱筆乱文失礼致しました。



# 「海外秀作アートポスター展と朗読」 企画が始まります

8月24日(月)から30日(日) 於：赤レンガ倉庫1号館・2階展示スペース  
《朗読は毎日午後2時・4時の2回・会場で》



演劇連盟では、横浜演劇研究所が蒐集した海外の秀作ポスターを整理・修復して、昨年青少年センター多目的プラザでポスター展を開催しました。今日のポスターと比べてほとんどが絵画によって構成され、その絵画がアートの域に達する素晴らしい作品であることから、一度だけの展示会ではもったいないという意見がありました。

横浜開港 150 周年を記念したさまざまなイベントの一つとして、赤レンガ倉庫 1 号館の 2 階展示スペースで、展示企画を募集していたことから、この際「海外秀作アートポスター展」を開催しようということになりました。

前回のポスター展の後に、演劇研究所の保存の中から発見されたハンガリー・旧チェコスロバキアの 20 枚のポスターを加えて、厳選した 70 枚のポスターを公開し、アートとしてのポスターを楽しんでもらうほか、ポスターの役割や、本来のポスターの持つ力などを考える機会にしたいと思います。

今回の企画も、神奈川県演劇連盟が参加する横浜世界演劇祭実行委員会とみなと横浜演劇祭実行委員会の共同主催によって行われますが、創造団体の参加が主体となる機会にふさわしく、ただ単にポスターの展示だけでなく、ポスター展の会場に於いて、朗読・影絵(劇団かかし座)などのパフォーマンスも同時開催することになりました。

二つの実行委員会傘下の創造団体・個人に呼びかけたところ、多くの賛同者を得ましたので、展示期間中の毎日、午後 2 時と 4 時から、それぞれ 30 分のパフォーマンスを行うことにしました。まわりの方に呼びかけて、ぜひ見に来て下さい。



## 劇団河童座

「からくり儀右衛門」 原作／横田弘行 脚色・演出／横田和弘

2009年5月2～4日 於：相鉄本多劇場



「からくり儀右衛門」と呼ばれた実在の発明家 田中久重をモデルにしたものがたり。

久重は幕末、明治初年にかけて日常生活にあると便利な発明品、この舞台に登場する深い井戸からの水汲みの苦勞をなくそうとしてポンプを考案するなど庶民の生活に根差した数多くの発明を行った。儀右衛門の製作した機械式時計「万年時計」は一度巻けば一年動くという精密なもので現在「重要文化財」の指定を受けている。作者はこの芝居で決して儀右衛門の偉人伝を描こうとしたのではないという。サブタイトルにからくりからくりしくじりの巻とある。発明に熱中すると寝食を忘れてしまうかわり者の儀右衛門が次々に発明に取り組むが失敗続きでなかなか成功し

ない。同じ長屋の住人たちは、はじめうさんくさく感じていた儀右衛門の一途さにここを置いてゆく。

この作品は河童座の創立者横田弘行氏が35年前に上演し当時の金で100万円の大赤字を出し劇団崩壊の危機に陥ったという。35年の年月を経て、子息の横田和弘氏が脚色・演出する親子二代のリリースで公演を持つ、河童座の歴史を感じさせる一齣である。

相鉄本多劇場の狭く、両袖のない舞台を使ってめまぐるしく舞台転換を行うのはいかほど大変なことか、この劇団の若さが可能にしたのではないか。無い物ねだりを承知で書くが、主人公儀右衛門の役柄、屋井智里さんはたいへんな努力で役を演じきって好感もてるが、にもかかわらずこれは男性の役だなあ……という感慨を持った。

作者とは視点が異なるが「からくり儀右衛門」を田中久重の青年期の生き様を日本の科学技術史のなかで文明開化の先達、先駆けとして描かれればより舞台に奥行きができたのではないか。久重の起こした田中製作所は後年、東芝の淵源になる訳だからその感を強くする。許容の文字数を超してしまった……。

[横浜小劇場 荒井賢一]

## 横浜小劇場

「しんしゃく源氏物語」 作／榊原政常 演出／高橋弘子・岡崎多延子

2009年5月9～10日

於：神奈川県立青少年センター・多目的プラザ



しんしゃく源氏物語は、きさく座も何度も手掛けている作品です。つつい自分の劇団と比較して観てしまい、大々先輩の横浜小劇場さんが過去に何度か上演された劇評を書くのは、これまた大変に難しいです。さて、

今回はどのような志向で観させていただけなのかと楽しみでした。右近と左近を一人にまとめたりしていましたが、装置も含め全体的に原作に忠実に演出されていたのが印象的でした。

しんしゃく源氏物語は、59年も前に書かれた作品ですが、現代でも色あせないテーマは、笑いの中にも人生の悲しさを表わした魅力ある芝居です。

例えば、円錐（えんすい）を横から見れば三角形に見える。それと同じように人生における出来事も視点によって異なる。一つの面から見れば正しいことも、ほかの面からみると違う場合がある。右近、宰相、少将、侍従、叔母のそれぞれの事情はよくわかったが、姫とのかかわり方、相手とのかかわり方をもう一歩深く踏み込んでほしかった。しかし、未摘花の悲しいときにもへらへら笑い、おかしい時も苦しい顔をしたくなる、こういう姫らしくない姫(?)もありか、と大いに納得しました。特に未摘花の「あんなあ、ご門のわきの松の木に藤の花がからんでいるのを見て、うちのことを思い出してくれはったそうなが……もし、それでも思い出してくれはらなんだらどうやる？」の最後の台詞は心に響きました。面白可笑しい、お涙頂戴だけではない、一本芯のある芝居でした。

かってない不況の現代だけに、どんな時代にも春は来ると信じて頑張ろう。そんな思いで青少年センターをあとにしました。

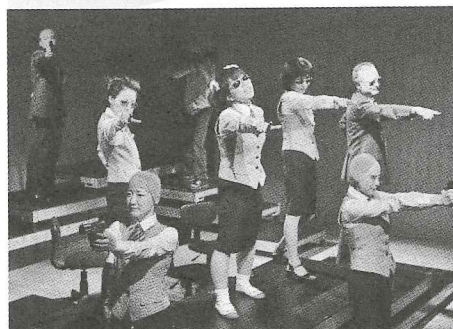
[劇団きさく座 高橋行憲]

## 劇団麦の会

「みなと銀行紅葉坂支店 ～本日防犯訓練実施中～」 脚本・演出／山口雄大

2009年5月23～24日

於：神奈川県立青少年センター・多目的プラザ



日曜の午後、客席には家族連れの姿が多く見られました。老若男女、幅広い年齢層のお客さんと満席です。客入れ音楽にRCサクセッションが流れる中、オフィス用回転椅子三脚と平台が階段状に積まれたシンプルな舞台に、

想像が膨らみます。ストーリーは銀行に強盗が入った際の防犯訓練が舞台になっています。窓口業務の女性行員三人の軽妙な掛け合は、これから起こる「強盗」というイベントを楽しく期待させます。とほけた風味(もちろん良い意味で!)の支店長も加わって、一層緊張感の無い、常時ヒマなんだろうと色濃く思わせる銀行の雰囲気はとても身近なおいが満載です。それだけに「強盗」

が現れてからの日常を非日常に変えていく皆のパワーがすごい！より楽しく面白くするために、行員自ら刺激的なリアクションを提案していきます。行員女性、支店長、そして強盗……と盛り上がっていく中、ついには銀行に居合わせたお客さんまで巻き込んでしまいます。ただこのお客さん、さわやかな曲者です。一見、仲睦まじそうなどこにでもいそうな夫婦なのですが、他の誰よりも乗り気で、防犯訓練を一大サスペンスに仕立てていきます。

さらに生歌のBGMが温かみも添えて笑いを誘います。各々の見せ場がわかりやすくて、次はあの人、次は……と、どんどん期待が高まっていくなか、待ってましたといわんばかりのシンプルな得た照明効果!! 最終的に皆バツバツと撃たれて死んでしまう(もちろんフリ)のですが、その滑稽さに会場は笑いの渦となったのでした。

演じている皆さんの楽しんでいる空気が会場と一体化した、笑いでいっぱい、あつというまの90分でした!

[G/9-Project 上田まきこ]



## 劇団かに座

「銀色の狂騒曲」作／高橋正樹 演出／田辺晴通

2009年5月20～21日

於：かなっくホール



最初に大変お疲れ様でした。そしてありがとうございます。とても大切なことを教えられたような、そんな公演でした。物語もさることながら一番輝いていたのはやはり役者の方たちだと思います。パンフレットにも書いてあったように、突然のアクシデントにも関わらず、皆さん堂々と、そして生き生きとして役を演じられていたように感じられました。逆にアクシデントがあったからでしょうか、観ていて圧倒されるようなパワーと役者一人一人の役へのひたむきさみたいなものが、全体のポテンシャルを高め皆さん一丸となって公演を成

功させるという気持ちがいよいよ一層芝居を盛り上げていたような、そんな感じをうけました。確かに役者の方たちの中で若手は少なかったですが、それを感じさせないほどの大人の芝居というもの存分に発揮され観ている側としては否が応にも物語に引き込まれてしまいました。観終わってここまで心がぽっと温かくなるという芝居には久しぶりに出会いました。ハートフルコメディ。まさに心のお芝居を堪能させていただきました。和花の乙女心、複雑だったと思います。けど人間、恋をしている瞬間が一番輝いていると思います。いくつになっても恋って素敵だなあ。そして、その周りの家族や友達の花への気持ち。羨ましい関係ですね。古き良き時代といましようか、生きるということに一生懸命な人たち、つまり恋も遊びも楽しんで暮らしている、それがこんなにも魅力的で素敵なことなんて、自分も歳をとってもこの人たちのように生きてみたい、本当にそう感じさせてくれたそんなお芝居でした。

[風雲かぼちゃの馬車 風達矢]

## 横浜開港150周年記念イベント

「区民デー」西区イベント(劇団葡萄座・劇団かに座出演)

2009年5月10日

於：横浜赤レンガ倉庫1号館3階ホール

## 1 劇団葡萄座 チューホフ作・山本伸二演出「結婚申込み」

昨年行われた「西区演劇祭」で、最優秀作品賞(葡萄座)と西区長賞(かに座)に輝いた2劇団の出演で開催された。

チューホフの名作に挑んだ葡萄座は、若手2人にベテランが絡んで取り組んだ。裸舞台の奥にパネル一枚を置き、登退場口として袖のない舞台をうまく使った。

触れ込みは喜劇ということだが、なかなか厳しいものがあつた。男2人はちょっとどころかかなり力みすぎで、無理な役作りで作品の持つ我が家自慢のこだわりへの思い入れから、行き違つた劇中人物をうまく伝えられなかったように思えた。娘役の山本さんは孤軍奮闘したが、登場人物全てが絡んで成り立つのがお芝居、一人だけ「よくやったね」ではちょっと残念。

新劇の原点となる作品への挑戦はこれからの葡萄座を担う者たちへの強い思い入れ。これまでにも何回か上演され、時々の在籍者のレベルアップをはかってきたが、肩の力を抜いて作品の持っている味を味わって欲しかった。

元は倉庫ということで音の反響がかなりきつく、セリフの通りというか国語としての伝わりがよくなかった。会場の条件を克服してどの会場でもよく伝わる発声を身につけて欲しい。

本公演2ヶ月前の厳しい時期に敢えて取り組んだ企画、これか

らの各自の活躍の肥やしになれば上演意図は充分生きると感じた。

## 2 劇団かに座 宮本研作・馬場秀彦演出「花いちもんめ」

公演直前に出演者が入院という事態に、急遽演出助手的に稽古を共にしていた金谷陽子さんが代役として取り組んだ。金、土の2日間夜を徹しての稽古でかに座のピンチをしのいだ。

子供を満州に残して帰国した母の苦しんだ足跡が浮かび上がってくる一人語り、会場からは咳一つ聞かれない。父や兄弟は子供の前に名乗り出られても、母は自らを許せず贖罪の88箇所巡りへと着く。どんな境遇に遭遇するかも知れないが、とにかく生きていて欲しいと絶望の思いで子供を現地に残したはず、その選択が生涯消すことの出来ない汚点として重く心に沈んでいる。断罪されるべきは母なのか、この状況を生んだ祖国なのか、ここでは語られることはない。

淡々と語りつがれた舞台だが、惜しむらくは演者に作品への思い入れが感じられなかったこと、しかしために練習時間の少なさ故か力みが無く作品の静かな怒りが伝わってきた。

公演直前のアクシデントなくともこの演者でトコトン仕上げた舞台を見てみたい思いを感じている。

[劇団麦の会 山元洋一]

## 神奈川県演劇連盟加盟劇団の公演スケジュール《8月～10月》

■劇団河童座	8月1日～2日	「泣いた赤鬼」「あおげあおげ」	於：相鉄本多劇場
■劇団ひこばえ	8月22日～23日	「セブンブリッチ」「おぼけリンゴ」	於：大和市生涯学習センターホール
	8月25日～26日	「セブンブリッチ」「おぼけリンゴ」	於：横浜赤レンガ倉庫1号館ホール
■第三回高校生のための芝居塾+風雲かぼちゃの馬車	8月29日～30日	「夏の夜の夢」	於：神奈川県立青少年センター2F多目的プラザ
■劇団きさく座	9月27日	「それとなく 鉄幹」	於：平塚市中央公民館大ホール
■プロジェクト夢樹	10月9日～10日	「はるなつあきふゆ」	於：横須賀文化会館大ホール
■風雲かぼちゃの馬車	10月16日～18日	※作品未定	於：神奈川県立青少年センター2F多目的プラザ
■劇団こゆるぎ座	10月24日～25日	～小田原大手前～「終戦物語」	於：小田原市民会館大ホール
■劇団麦の会	10月24日～25日	「第⑤回☆麦畑★秋の大収穫祭」	於：神奈川県立青少年センター2F多目的プラザ



# 演劇プロデュース『螺旋階段』

## 《上演作品履歴》

2007年3月24日	小田原市中央公民館	旗揚げ公演Vol.zero RAIN
2007年11月3/4日	生涯学習センターけやき	第2回公演Vol.one one more time
2008年3月20日	県立青少年センター多目的ホール	第3回公演Vol.one point five RESET
2008年11月8/9日	生涯学習センターけやき	第4回公演Vol.two二つ目の角を右に
2009年3月21日	県立青少年センター多目的ホール	第5回公演Vol.two point five COUNTDOWN



## 螺旋階段の歩みを振り返ってみた

2006年8月、生きる希望を見失っていたわけでも、未来への明るい道筋を思い描いていたわけでもない。

自分の書く芝居が面白すぎて披露する場所を探していたわけでも、天才的な笑いのセンスで観客を大爆笑させたことがあるわけでもない。

ただ、芝居が好きだった。観るのでは飽き足らず舞台上がり、人の書いた作品では飽き足らず自分で書きだした。

他人の芝居を酷評し、自分の芝居には赤面する。まだまだ、青二才。だけど、劇団を作りたかった。

その日、小田原で他劇団の芝居を観劇し、いつものように小田原の居酒屋にて乾杯。と、同時に「劇団をやるぞ！」の一言で結成。このとき4人中3人は酒の勢いだと思っていた。

わたくし、緑慎一郎の「脚本と演出はやらしていただきたい」という厚かましい言葉に同席していた田代、三春、上妻はしぶしぶ了承。このとき劇団名は全員で話し合い「マッチ小屋(ばこ)」に決定したが、数日後、私が演劇プロデュース『螺旋階段』にしますと言い出したため「マッチ小屋(ばこ)」での活動は劇団結成一回目の練習で終わりを迎えた。

2007年3月、「RAIN」でお披露目公演を小田原にて行う。以降、毎年2回ほどの公演を行っている。何度舞台に立っても未だに自分の芝居には赤面する。自分の演出した芝居に後悔する。まだいける、まだやれる、螺旋のような繰り返し。

それでも今は10代から50代の幅広い劇団員に支えられ次の公演の準備をしている。無茶苦茶な演出に全員が四苦八苦しながら付いてきてくれている。だから、まだいける、まだやれる。

(緑 慎一郎)

## 私にとっての螺旋階段

1980年4月「熱海殺人事件」、初めて見た芝居に感動して拍手をしていた。「私もいつか……。」と思ったあの日から私の芝居への想いは続いている。演劇部に入り、劇団に入った。あの頃からは随分大人になった、私所属の結成25年続いていた劇団かまぼこ座と緑氏所属の結成14年続いていた劇団摩訶不思議の小田原長寿劇団が共に期限未定の休座となってしまったことで、螺旋階段への道が開かれた。開演前の緊張感、舞台の上の充実感、拍手の中の満足感、閉ざしてたまるか、好きだからやめられない、それだけなのだ。

螺旋階段の舞台には殺陣も踊りもない。「RAIN」(2007年)では、死んだことに気がつかず恋人を探すが、恋人は40年間も待ち続け一生を終えてしまう。「one more time」(2007年)では、事故死した恋人を救うためにタイムスリップして過去を変えようとするが、結局変わらない。「二つ目の角を右に」(2008年)では、死を覚悟した重病人が生きる希望を取り戻したが死んでしまう。今秋の舞台は小説の中の主人公が飛び出すという……。ファンタステックであり、思い通りにならない現実。GREENの描く主人公は全てが、と言っていいほどハッピーエンドで終わらない。だけど、主人公にとっては決して不幸だけではなかったりする。それを、ユニークな登場人物たちが取り囲み、甘く・切なく・笑って・泣ける舞台を作り上げている。

まだまだ昇り始めたばかりの螺旋階段。今後、もしかしたら殺陣やダンスを取り入れた芝居をやるかもしれない。少しずつ、着実に、上に向かって、試行錯誤を繰り返し、くるくると廻りながら階段を上っていきたい。観客が笑い、泣き、感動を持ち帰っていただける舞台づくりを目指して……。

(田代 真佐美)



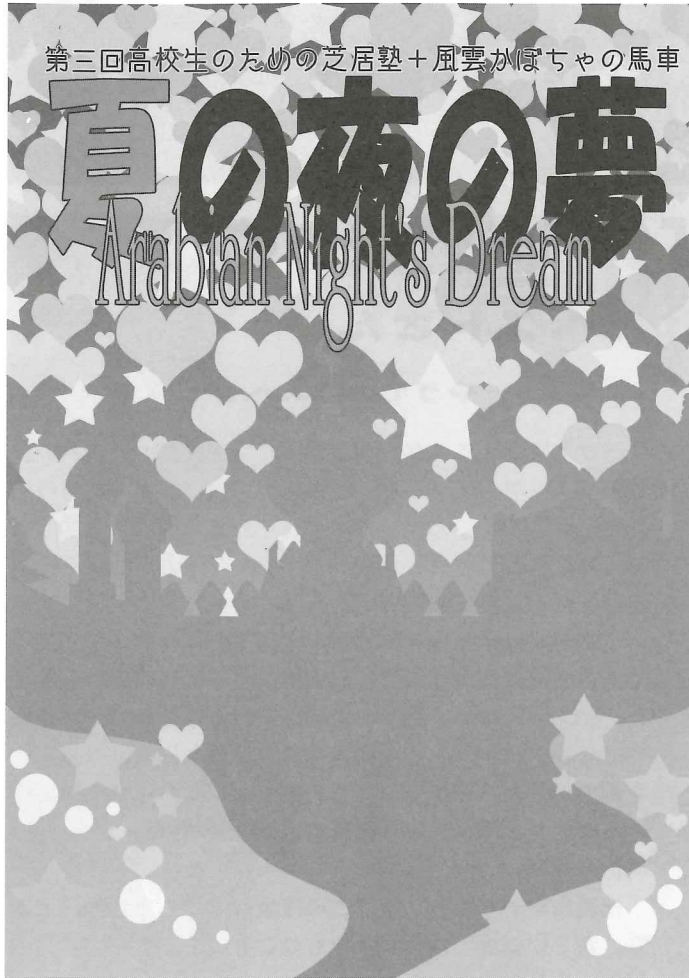
## 《主な劇団員》

代表・演出・脚本……………緑慎一郎  
 役者……田代真佐美、露木幹也、水野琢磨、三春瑞樹  
 音響……………上妻圭志

## 《お問い合わせ》

HP : [www.rasen-k.com](http://www.rasen-k.com) MAIL : [info@rasen-k.com](mailto:info@rasen-k.com)





# 2009年度 芝居塾

—風雲かぼちゃの馬車—



今回私たち風雲かぼちゃの馬車は、「第3回高校生のための芝居塾」の担当劇団として公募で集まった高校生13人と共に芝居作りを行っています。芝居塾とは、前途洋々たる高校生に劇団の芝居作りを学びながら舞台を経験してもらおうという試みであり、現在担当劇団となった私たちは、高校生に楽しく熱い舞台を経験してほしいと日々稽古に奮闘しております。稽古開始直後は互いにぎこちなさもありましたが、今では一人一人が積極的に発言をするようになり、活気ある稽古場へと変化しました。それぞれが舞台に出るという責任感から課題をこなしてくる意欲を持ち、自らやったことのない事への挑戦、周りの人に見られているという恐怖の中で、その中に飛び込んでいく勇気から高校生の底知れぬ可能性が見えました。私たち劇団にとっても高校生達と芝居を作るという事は初めての試みであり、不安な部分も多々ありましたが、実際には高校生たちの考えている事や行動の一つ一つが新鮮であり、感化される部分、教えられる部分もあり、素晴らしい環境で稽古をする事が出来ています。これを機会に、多くの高校生が芝居の面白さを知って演劇や創作活動に意欲を持ってくれたらと思います。また、今回だけではなく、第4回、5回と回を重ねていくごとに参加者が増え、若年層からの新鮮な芝居の発信元となるような人材が発掘される事を願っています。今回私たちが行う第3回高校生のための芝居塾がそのきっかけとなる事ができれば幸いです。

風雲かぼちゃの馬車と高校生がお届けするひと夏の思い出。  
恋せよ乙女！戦え男ども！

「夏の夜の夢～Arabian Night's Dream～」

公演は2009年8月29日～30日の2日間。29日の開演時間は14時と18時。30日の開演時間は11時と15時の計4回公演となっています。（※開場は開演の30分前、受付開始は60分前となります。）

公演料金は高校生以下500円、一般1500円で、場所は神奈川県立青少年センター2F多目的プラザです。塾生約13名との「第3回高校生のための芝居塾の公演」をどうぞお楽しみください。この機会に高校生も是非是非お友達を連れてお越し下さい。お待ちしております。



## 演劇資料室だより

## 演劇資料室

## 日本最初の西洋劇場「ゲーテ座」とヘフト

## (その1) 発見されたヘフトさん

## やりての商人ヘフト



日本で最初に建てられた西洋式劇場「ゲーテ座」と劇場を建てたヘフトについてはあまり識られていないと思います。今号と次号の2回にわたって紹介します。

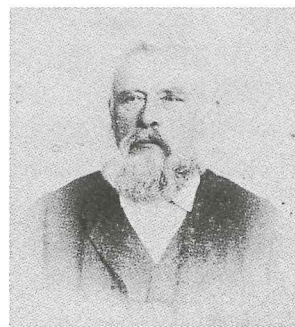
幕末から明治初年にかけて横浜で活躍したオランダ人のノールトフーク・ヘフトは忘れられた存在だった。バーナード・ショーの研究で著名な升本匡彦(名古屋大学教授)が1968年演劇学会でこれまで殆ど知られていない「ゲーテ座」とヘフトについて明治初年横浜で発行されていた英字新聞「ジャパン・ガゼット」、「ザ・ジャパン・タイムズ」などを丹念に調べて「ヘフトとゲーテ座」の調査報告を行った。この発表会に出席していた横浜演劇研究所の創立者加藤衛が横浜交響楽団主宰者小船幸次郎に呼びかけで1971年からヘフトを顕彰する「ヘフト祭」を山手イギリス館で開催、升本教授の講演、横浜小劇場と横響がそれぞれ小品を上演、演奏のあとさやかなパーティが定番メニューとなり毎年5月におこなわれ岩崎博物館山手ゲーテ座が開設された1980年以降は岩崎博物館が加わり三者共催となり会場は山手ゲーテ座に移動。

今年5月24日(日曜)第38回横濱山手ヘフト祭には葡萄座がチェホフ作「結婚申込み」を上演した。

ヘフト家はオランダの名家でオランダ東部の町デルデンで十三人兄弟の長男として生まれた。ヘフト家の長男は海外に出て活動するのがきまりで若くして商船に乗り30才の時には船長としてヨーロッパとアジア各地の港ではその名を知られる存在になっていた。

当時の船会社は他人の貨物の輸送を引き受ける運送会社であると同時に自社の貿易品を運送する貿易商人でもあった。40才の時に船を降りて横浜に定住するために来日する。1861年(文久元年)有能な商人ヘフトは幕末に横浜の将来性をみていたわけである。はじめ弟ウィレムとヘフト兄弟商會を開いた、場所は現在の馬車道コンビニ・ローソン(元の明治屋)のあたりとされる。

横浜に定着したヘフトはこの後最も成功した貿易商となり、新しい劇場との関わりをもつことになる。以下、次号のお楽しみ。



## ■「演劇資料室」にあるヘフトの本の紹介

横浜ゲーテ座 —明治・大正の西洋劇場— 升本匡彦著  
(横浜の文化No.7) 横浜市教育委員会1978年刊 D-104/2878

横浜ゲーテ座 —明治・大正の西洋劇場— 升本匡彦著  
第二版 (市教委版の増補・改訂版)  
岩崎博物館(ゲーテ座記念)出版局 1986年刊 D-281/4209

## 神奈川県演劇連盟加盟劇団の記録 (50音順)

- 演劇プロデュース『螺旋階段』 ●京浜協同劇団 ●劇団蒼生樹 ●劇団蒼い群 ●劇団河童座 ●劇団かに座 ●劇団川崎演劇塾
- 劇団きさく座 ●劇団こゆるぎ座 ●劇団ひこばえ ●劇団葡萄座 ●劇団麦の会 ●劇団横綱チュチュ ●風雲かぼちゃの馬車
- プロジェクト夢樹 ●横浜小劇場 ●ラ・テラ ●G/9-Project

神奈川県演劇連盟HP: <http://kenenren.web.infoseek.co.jp/2003/> 演劇資料室HP: <http://kenenren.web.infoseek.co.jp/shiryoushitsu/>